

～「子どもだけど大人」「大人だけど子ども」な人たちへのメッセージ～

# LITTLE BIG



第68号 2019.10.17

発行：福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

<https://www.library.fks.ed.jp>



## 文学とは？

文学といえば、皆さんは何を思い浮かべますか？  
文学には、詩、小説、物語、短歌、俳句、戯曲、随筆等、さまざまなものがあり、言葉で表現されるもののうち芸術性のあるものをいいます。そのため、文学は文芸と呼ばれることもあります。

(※)

### ◆文学を考える◆

『はじめての文学講義 読む・書く・味わう(岩波ジュニア新書)』(中村 邦生/著 岩波書店 2015.7)

文学の楽しみ(価値)とは、日常の当たり前、思いもよらない新たな認識を付加させてくれるところにあります。本書では、ダブル・ヴィジョンとう観点から太宰治ほか、様々な文学作品を読み解き、文学についてわかりやすく解説しています。

この本は、中学生・高校生を対象に、学校で行われた講演会をまとめたものです。生徒のリクエストにより開催された講座で、生徒からの質問にも答えています。

(※)参考文献

『旺文社標準国語辞典』

(旺文社 2011.11)

『総合百科事典 ポプラディア』(ポプラ社/編 2011.1)

### 【Pieces - かけらたち -】 本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。

みなさんの心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆「お兄ちゃん、古い鍵なんていっぱいもってるじゃない。まだいるの？」

「鍵は扉をあけてくれる。いくらあっても多すぎはしないよ、ラウリータ」

『夢見る人』(パム・ムニョス・ライアン/作 ピーター・シス/絵 原田 勝/訳 岩波書店 2019.2 p233)

◆かんじんなことに気づいた。意思疎通できるようになっても、だれもがわたしの話に耳を貸してくれるわけじゃない。

『秘密をもてないわたし』(ペニー・ショエルソン/著 河井 直子/訳 KADOKAWA 2019.2 p336)

◆それって、ただ俺らが中学生になったからだろ。思ったことを口でいうようになっただけなのに、大人はそれをハンコーキだなんていうんだから

『ぼくらのセイキマツ』(伊藤 たかみ/著 理論社 2019.4 p68)

◆声をあげることが行動じゃないなんて、だれが言ったの？口をつぐんでいるよりはずっと生産的なことよ。

『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ あなたがくれた憎しみ』(アンジー・トーマス/作 服部 理佳/訳 岩崎書店 2018.3 p431)

◆学校のルールがあって、先生たちのルールがあって、社会のルールがあって、文書になってないぼくたち子どもの世界のルールもある。ちがう層のルールがいくつも重なっていて、どこに従って行動すればいいのか、わからなくなる。

『天地ダイアリー』(ささき あり/作 フレーベル館 2018.11 p125)

◆不可能だと思われていることを、それでもなお想像できるとき、それを奇跡というの

『ミラクル』(シヴォーン・パーキンソン/作 浜田 かつこ/訳 金の星社 2018.11 P23)

## YA 文学

ここ1～2年間くらいで出版されたものの中から、中学生・高校生をはじめとする10代の方（YA）に向けて、文学作品を紹介します。

### エッセイ

#### 『「国語」から旅立って（よりみちパン!セ）』（温 又柔／著 新曜社 2019.5）



3歳の時に台湾から家族で移住し、日本で育った小説家の著者が子供時代を振り返ります。子供の頃、両親の方針で中国語を習わなかった温又柔さんは、高校に入って自らの意思で中国語を勉強するようになります。大学生の時には、言葉に対しある程度の自信を持ち中国に留学しますが、現地の人から中国人の割には中国語が下手だと言われてしまいます。

温さんの一番得意な言語は、中国語でも、台湾での中国語でもなく、日本語です。けれども、決して日本人でも中国人でもない台湾人の温さんにとって、「国語」とはどんなものだったのでしょうか？

### 文学論

#### 『物語は人生を救うのか（ちくまプリマー新書）』（千野 帽子／著 筑摩書房 2019.5）



私たちは、それぞれ自分や他人の様々なストーリー（物語）を日々生成しながら、生きています。ストーリーは、私たちが生きていくためには必要なものですが、プラスの面ばかりが強調されがちです。ストーリーには知らぬ間に私たちの考え方を操作し、私たちの行動を縛ってしまう、負の側面もあります。では、生きていく中でストーリーをどう捉えていけばよいのでしょうか。

『人はなぜ物語を求めるのか（ちくまプリマー新書）』（千野 帽子／著 筑摩書房）の続編的な位置付けの本です。

### 小説

#### 『秘密をもてないわたし』（ペニー・ジョエルソン／著 河井 直子／訳 KADOKAWA 2019.2）



14歳のジェマは脳性まひのために話せず、また身体を動かせないため、意思や考えを誰にも伝えることができません。しかし視力や聴力はあるため、周りのことはきちんと理解しています。秘密をもらすことのない彼女は、よく打ち明け話をされますが、ある日、普段からジェマに意地悪な態度をとる、介護ヘルパーのサラの恋人から、近所で起きた殺人事件の犯人は彼自身であることを聞かされます。ジェマは、周囲に目を配り、少しずつ彼が言ったことは本当のことだと確信していきます。そして、さらに事件が起き……。どうにかして周囲に伝えようとするジェマ。彼女は犯人を明かすことができるでしょうか？

『夢見る人』(パム・ムニョス・ライオン/作 ピーター・シス/絵 原田 勝/訳 岩波書店 2019.2)



母親が小さい頃に亡くなり、独裁的な父親の元で暮らす、ネフタリたち兄弟。子供のころから感受性が強く、本好きで、文才があったネフタリですが、父親は、文学は役立たないものだとし、医者や、実業家になることを強要します。密かに記者や詩人のような文筆家になるために大学を行こうとしますが、父親に知られてしまい、家にあった彼の書いたものは全て燃やされてしまいます。

ノーベル文学賞を受賞したチリの詩人、パブロ・ネルーダの少年時代を題材にした、まるで詩のように綴られた物語です。巻末に、彼の詩も掲載されています。

## 小説

『むこう岸』(安田 夏菜/著 講談社 2018.12)



勉強だけが取柄で、苦勞して有名私立中学に進学した和真は、結局勉強についていくことができず、3年の時に公立中学に転校し直します。小学生時代の同級生を避けるため、あえて遠くの中学に通うことにしますが、クラスメイトの樹希にその秘密を握られ、秘密を守る交換条件としてある取り決めをします。そんな折、生活保護を受けて暮らしている樹希が、将来について、自分とはまた別な意味で絶望的な状況にあることを知ります。和真は生活保護法について、中学生の彼なりに調べようとします。

「貧乏は自己責任だと言う人もいるけれど、この法律はそんなふうには切り捨てない。努力が足りなかったせいだとか、行いが悪かったせいだとか、過去の事情はいっ

さい問わない。ほんとうに困窮している人々には、すべて平等に手を差しのべようという……。これを読んだとき、ぼくは人間を信じてもいい気がしたんだ」

## 小説

『ぼくらのセイキマツ』(伊藤 たかみ/著 理論社 東京 2019.4)



「だって、結局みんな変わっちゃうんだったら、地球が滅亡してもしなくても、この夏は、この夏で終わりってことじゃないか」

今年の夏休み後に廃部予定の文芸部。部員は、「なにもない、なにも起きない」町で、来年(1999年)の夏に起きるはずの「ノストラダムスの世紀末を待っていたりする」いっせーと、いっせーが小学生の頃からずっと恋をするゾンビみたいな人形を持ち歩く、保健室登校のナナコと、剣道部をやめ3年生になってから入部したヒロの3人。部誌の最終号のテーマを、創作しやすいようにと広く「青春」に決めると、顧問の先生から読みもののコーナーは、十年後ではなく、「十年前の私へ」というテーマで書くよ

う告げられます。

3人は、部活動引退のための区切りとして、また部誌のテーマでもある青春をするため、夏休みに海へ行く計画を立てます。

## 小説

### 『天使のにもつ』（いとう みく／著 童心社 2019.2）

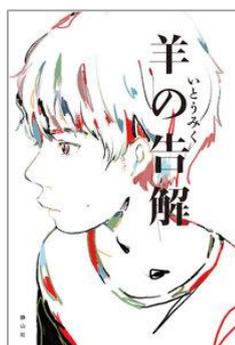


「頼んでまでして、なんで仕事しなきゃなんないの？しかもただで」  
子どもと遊んで楽しそうだからと、いい加減な理由で職場体験先に保育園を選んだ中学2年生の風汰。5日間の職場体験は毎日忙しく、「いやだ、きつい、帰りたい」と心の中で叫びながらも、あっという間に4日間が過ぎます。ある意味で正直な風汰は、保育園の子どもたちから好かれ、その中でも「しおん君」には特に懐かれます。4日目の職場体験の日の夜に、認知症見守り隊につき合わされ外出した風汰は、偶然一人でいるしおん君を見かけますが、彼のいつもとは違う様子に不安を覚え、いてもたってもいられなくなります。

職場体験の後、保育園から職場体験・評価表が渡されます。そこには何が書かれていたかと思いませんか？

## 小説

### 『羊の告解』（いとう みく／著 静山社 2019.3）



父親が人を死なせてしまい、警察に捕まってしまった中学生の涼平。周囲にはそのことを知らなかったものの、新聞の片隅に記事が載り、涼平たち家族は身を隠すように引っ越します。新しく通い始めた学校には、痴漢でつかまった兄がいるという噂の女子がクラスにいて、その姿が自分の状況とも重なり、からかうクラスメイトを思わず殴ってしまいます。

家族の誰かが罪を犯してしまったら、自分も悪いことをしたことになるのか、血がつながっていると、自分も同じような罪をおかしてしまう恐れがあるのか等、涼平の抱える葛藤は、様々なことを問いかけてきます。

## 小説

### 『徳治郎とボク』（花形 みつる／著 理論社 2019.4）



祖母を亡くしてから一人暮らしを続けるおじいちゃん(徳治郎)は、3人の娘たち(ボクの母親の姉妹)に心配されてあれこれ言われても聞こえないふりをする頑固者。そんなおじいちゃんに、いとこたちは距離を置きます。ボクは両親が離婚した頃、一時的におじいちゃんの家で母親と身を寄せますが、無口でほとんどしゃべらないはずのおじいちゃんが、ボクが畑について行くと、あれこれ自分の子供時代の話聞かせてくれるようになり、それが楽しみとなります。そのうち、母の仕事の都合で引越し、学校やクラブ、友達と遊んだりするのが忙しくなって、おじいちゃんに会いに行かなくなりますが…。

小学生を卒業する頃におじいちゃんが亡くなります。それまでのおじいちゃんとボクたち家族の交流がたんと描かれています。

## 小説

『つくられた心』（佐藤 まどか／作 ポプラ社 2019.2）



各クラスに、いじめ防止のアンドロイド（ガードロイド）が配置された理想教育モデル校に入学したミカ。ガードロイドを探すことは校則で禁止されているものの、ミカたちは人とまったく見分けのつかないガードロイドの正体がどうしても気になり、ガードロイドは一体クラスの誰なのか、本当にガードロイドは存在するのか、お互い疑心暗鬼となります。

この小説の舞台は近未来です。しかし、科学技術が急速に発達している今日、決して遠くない未来にこんな学校ができてもおかしくはないと思いませんか？

## 小説

『九時の月』（デボラ・エリス／作 もりうち すみこ／訳 さ・え・ら書房 2017.7）



イランの名門女子校に通う 15 歳のファリンは、家庭内では母親との関係が上手く行かず、学校でも孤立していて、親しい友人は 1 人もいない孤独な少女です。しかし美しい転校生サディーラと出会い、彼女が初めての「友達」になります。

親しく付き合ううちに、2 人はお互いを愛するようになりますが、イランでは同性愛は死刑にあたいする重い犯罪でした。学校に関係が知られてしまった 2 人は引き離され、親からも激しく非難されますが、それでも気持ちに嘘をつかずに同性愛を否定しません。そしてついに、逮捕されてしまいます。過酷な運命を生きた女性の、実話を元にした物語です。

「もうすぐ九時ね。もうひとつ、協定を結びましょう。毎晩九時に月をみること。そうすれば、わたしたち、どんなに離れてても、心はいっしょにいられるのよ」

## 小説

『トンネルのむこうに』（マイケル・モーパーゴ／作 杉田 七重／訳 小学館 2018.11）



第二次世界大戦中、空襲で家を失ったバーニーは、母親と親戚のいるロンドンへ向かう途中、乗っていた車が爆撃されます。車はトンネル内で立ち往生し、暗闇を怖がるバーニーに、近くの席のおじさんが気を紛らわすために物語を聞かせてくれます。それは、友人が第一次世界大戦のある戦いで、負傷していた敵国の一人の兵士を殺せず見逃し、そのことが後の歴史を大きく変えてしまったかもしれないというものでした。

この物語に登場する友人にはモデルとなった実在の人物がいます。もしもこの出来事が本当にあったとして、もしもその人を助けていなかったら、第二次世界大戦はどうなっていたでしょうか。

## 『しびれる短歌 (ちくまプリマー新書)』(東 直子/著 穂村 弘/著 筑摩書房 2019.1)



短歌について調べる？ 学ぶ？ いえいえ、短歌についてお喋りしましょう。

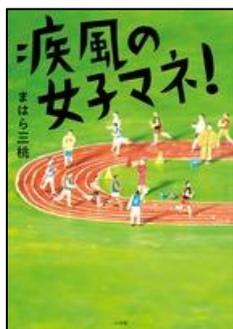
歌人二人が今まで見てきた近代～現代の短歌について、ジャンルを分けながら、込められた心を探りながら、好き勝手にお喋りします。

5・7・5・7・7の31音で綴られた、恋、食べ物、家族、動物、時間、お金、固有名詞、トリッキーな歌。同じジャンルの中でも、時代背景、人、世代などによって、モノの見方が変わり、詠み方も変化していきます。

取り上げられているのが近代～現在の短歌なので親しみやすく、また、短歌とは表現の仕方がこれほど自由なのかと驚く歌も出てきます。歌人になるにはどうすれば良いのか、

対談者の経験を交えながら赤裸々に話す付録もついた1冊です。

## 『疾風の女子マネ！』(まはら 三桃/著 小学館 2018.6)



スポーツで有名な上、進学校でもある私立高校に入学した咲良は、将来有望男子と出会いたくて、バスケット部か水泳部のマネージャーになろうと決めていました。ところが、偶然見かけた走る男子がかっこよくて、彼のいる陸上部のマネージャーに志願します。彼はリレーの選手でした。部内恋愛は禁止。陸上部には、すでに有能で厳しいマネージャー 直がいます。マネージャーとしての部活動は、咲良の想像していたものとはまったく違うものでした。

咲良には、中学のときにバレー部で活躍していた過去があります。咲良は、選手として活躍していたときには分からなかったマネージャーの気持ちに気づき、選手を支え、一緒に戦うマネージャーに成長していきます。

## 『天地ダイアリー』(ささき あり/作 フレーベル館 2018.11)



中学入学と同時に、引っ越し先の学校に通い始めた木下広葉。親の仕事の都合で、2、3年おきに転校を繰り返してきましたが、前回の学校でクラス内で浮いてしまい、以降、マスクをしないと外出できなくなります。中学校では、目立たないように、当たり触らず過ごそうと決めていた彼は、全員所属が決められている委員会活動でも、地味な雰囲気のカイロ栽培委員会を選びます。

栽培委員会の活動は、校内の花壇に花や野菜等を育て飾ること。植物の栽培は土作りがまずは重要で、委員会の活動もそこから始まります。

「天地返しというのは、表面の土と深いところの土を入れかえて、土を再生すること

です」

栽培委員会の活動を通して、少しずつ凝り固まっていた広葉の気持ちが変わっていきます。